

授業科目名	アフリカの歴史と文化	単位数	2単位
担当教員名	藤井 千晶	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力) DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる(継続力)			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) サハラ以南アフリカ(以下アフリカ)の歴史について通時的に学ぶとともに、地域間交流についても理解する。 (2) アフリカの人々が、私たちと同時代かつ地続きの世界を生活していることを学修する。 (3) アフリカの事例と自らの関心を関連づけて論じることができる。			
授業の概要			
皆さんの持つアフリカのイメージは、どのようなものでしょうか。未開社会や貧困、野生動物といったアフリカイメージは、本当の姿でしょうか。本授業では、教科書『ようこそアフリカ世界へ』を通読することで、アフリカの全体像について学びます。スクーリングでは、アフリカ社会に暮らす人々が、私たちと同時代に生活していること、またこれらの地域が私たちの社会と地続きの世界であることを、身近な事例を読み解きながら学びます。			
授業計画			
第1回: 地理と自然—多様な景観が織りなす大地(テキスト11~28ページ) 第2回: 人々と生活—多様性、連続性、創造性(テキスト31~48ページ) 第3回: 人々の世界観—ひらかれ、つながる秩序と信念(テキスト51~66ページ) 第4回: 歴史(テキスト69~101ページ) 第5回: 国家と政治—揺らぐ国家像と政治体制の変容(テキスト103~118ページ) 第6回: 経済と開発—市場の中のアフリカ(テキスト121~140ページ) 第7回: 越境する人々—移動によって広がるアフリカ世界(テキスト143~159ページ) 第8回: 感染症—アフリカは感染症対策の主役となれるのか(テキスト161~177ページ) 第9回: 教育—問われる学校の意義(テキスト179~192ページ) 第10回: 社会的包摂と排除—見落とされてきた地域社会の構成員(テキスト195~220ページ) 第11回: 国際関係と日本との関わり(テキスト213~250ページ) (以下スクーリング) 第12回: 東アフリカの衣食住 第13回: 生と死・冠婚葬祭 第14回: 伝統医療の現在 第15回: 「地理的・精神的に遠いアフリカ」を問い直す 定期試験			
スクーリングでの学修			
教科書で学修したアフリカ史と現在をふまえ、主に東アフリカの文化に焦点を当てた講義を行う(第12~15回)。講義の最後では、ステレオタイプや偏見、今後の日本(人)・アフリカ(人)関係について考える。			
テキスト			
遠藤貢・阪本拓人(編)(2022)『ようこそアフリカ世界へ』昭和堂			
参考書・参考資料等			
松田素二(編)(2023)『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社 宮本正興・松田素二(編)(2018)『改訂新版 新書アフリカ史』講談社			
学生に対する評価			
スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)			